

令和8年8月31日

東小中学校 学校だより 号外3

9年間で育てる学校へ

「地域とともにある学校づくり」の新しい一歩～義務教育学校の設置に向けて～



東中学校長 小澤 直彦

東小学校長 関野 貴之

日頃より、東小中学校へのご理解とご協力ありがとうございます。今年の夏も酷暑が続いておりましたが、大きな事故等もなく、小中学校には子どもたちの元気な声が戻ってきました。まだまだ残暑が続いておりますので、学校では、子どもたちが登下校中に熱中症にならないよう全職員で言葉かけを続けることとしています。各ご家庭でもこまめな水分補給や帽子や日傘の上手な活用等声掛けをお願いします。

【開校を目指して、次のステージへ】

さて、本年2月の号外1では「なぜ義務教育学校を目指すのか」、7月の号外2では「皆さんからいただいた声と、それに対する回答」をお伝えしました。

今回は、これまでお伝えしてきた義務教育学校については、教育委員会会議でご議論いただいてきましたが、この度令和10年4月の開校を目指し、さらに準備を進めていくこととなりました。

これまでもアンケートで、制服や運動会や修学旅行は変わらないとお伝えしてきましたとおり、東小中学校では、「義務教育学校になる」ことをゴールとするのではなく、義務教育学校開校が「どんな学校にしていくのか」というスタートとなり、子どもたちが主役で保護者や卒業生でもある地域の方々と具体的に考えていくことが大事であると考えています。

小中合同の交通安全教室授業

【まずは学校名】

その一つが、新しい学校の名前を考えることです。校名は、日々子どもたち、地域の方々が呼び、卒業してからも残るも



のです。だからこそ、大人だけで決めるのではなく、子どもたち、保護者、地域の皆さまの思いも大切にしながら考えていきたいと思っています。まず校名について、9月24日まで公募を行います。ぜひ、「こんな学校になってほしい」という願いを含め、校名などを添付の二次元コードからお寄せください。

ご意見等



【子どもたちも動き始めています】

「みんなで協力し合って良い学校をつくる」
「学年関係なく、支え合って生活したい」

そして、もう一つ大切な動きがあります。1学期、東小中学校の代表児童生徒が集まり、「子ども部会」を開催しました。「義務教育学校になったら、どんな学校にしたい？」と、大人から答えを示すのではなく、子どもたち自身が未来の学校について考え、意見を出し合いました。子どもたちは、吹き出しにあるように、学年の枠を越えた学校づくりをイメージしていました。さらに、校名についても、「東らしい名前がいい」「シンプルなものが良い」といった率直な意見が出されました。こうした声は、後日開催された学校運営協議会でも共有され、委員の皆さまからも同様の意見が聞かれました。校名は学校運営協議会とも熟議を重ね、学校としての意見を教育委員会の方に伝えていきたいと思っています。義務教育学校は、9年間でどのようにつなぐのか。9学年がどのように関わるのか。どのような学びを大切にするのか。そして、どのような学校を子どもたち・地域と作っていくのか。これから一つひとつ、子どもたち、保護者、地域の皆さま、そして教職員で考えていきます。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。